

(大治町)

市町村の 基本情報	学校数	小学校 3校	中学校 1校
	地域学校協働 活動推進員等 の配置状況	統括的な地域学校協働活動推進員	0人
		地域学校協働活動推進員	1人
		統括コーディネーター	0人
		地域コーディネーター	2人
	CS及び地域 学校協働本部 設置状況	CSを導入している学校数	小3校 中1校 4校合同で学校運営協議会を設置
		地域学校協働本部がカバーしている学校数	小3校 中1校



ネットワーク連絡会のワークショップ

(活動の実際)

＜地域連携子ども応援活動ネットワーク連絡会（地域学校協働本部）＞

（目的） 学校支援地域本部を中心に、学校支援及び学校外の子供支援に取り組む企業、NPO、各種団体等の緩やかなネットワークを作り、地域学校協働活動の推進を図る。

（活動内容） 毎年、情報交換や研修会を実施している。令和6年度は7月25日に連絡会を開催し、大治南小学校が、JA・町農業振興会と協働で取り組んでいる食農教育についての活動事例発表を行った。また、各種団体・学校が一緒になって、地域協働のためのアイデアを出し合った。

（活動で意識していること） ネットワーク参加者が相互理解を深めるとともに、地域と学校双方向の連携・協働の意識を高めるために、ワークショップを行っている。

＜はるボラフレンズ(学校支援地域本部)＞

（目的） 学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子供たちを育てる体制を整えることを目的とし、併せて地域の教育力の向上を目指す。

（活動内容） 授業サポート（家庭科実習、理科実験の準備、書写の指導補助、昔遊びの伝承、校外のプール施設への付き添いと見守り等）、図書サポート（図書の整理整頓）、校外学習引率サポート、環境サポート（消毒作業、植栽、除草等）、その他（子供たちのためにできること）を行う。学校から依頼があった日時・活動内容をもとに、学校支援地域本部が参加希望者を募り、取りまとめて学校に紹介している。

（活動で意識していること） ボランティア一人一人が学校の仕組みや教育方針を理解し、自らできる人が、できるところから行っていくようにしている。

＜スタディサポートクラブ(SSC)(地域未来塾)＞

（目的） 家庭での学習が困難であったり、学習習慣や基礎学力が十分に身に付いていなかったりする中学生への学習支援をととして、生徒自身が自らつまずきに気づき、主体的に学ぼうとする姿勢を育てる。また、生徒自身が学び残しの克服に努め、基礎基本の定着を図ることを目指す。

（活動内容） 参加者が、授業で使用している問題集や家庭学習用の問題集等を持参し、指導者に質問しながら自学自習をする。希望する生徒については、国語・英語・数学の基本的な学習内容(漢字や英単語の読み取り・書き取り、計算練習)のプリントを提供し、自学自習を行う。

（活動で意識していること） 指導者は、地域住民・元教員・大学生ボランティアが務めている。指導者から積極的に生徒たちに声をかけ、コミュニケーションを図りながら自学自習をサポートしている。

(◎成果と●課題)

- ◎ 地域連携子ども応援活動ネットワーク連絡会は、各団体の活動を紹介し合うことができ、各団体独自のイベント等においても協働したり、他団体から新たな活動のヒントを得たりするよい機会になっている。
- ◎ はるボラフレンズでは、学校のニーズに応じて必要な時に必要とされる人員を配置し、先生の活動をサポートすることができている。
- 地域学校協働活動について、参加団体・個人の広がりが見られず、地域住民への周知は十分とは言えない。今後、町ホームページや広報等を利用して周知を図りたい。

(関係者の声)

- ・ はるボラフレンズに参加して、子供たちの近くで子供たちの成長に関わることができ、とてもやりがいを感じる。(地域の方)
- ・ 地域未来塾に参加して、教えることの難しさを実感し、教職を目指す自分のよい経験になる。(大学生)
- ・ 地域未来塾に参加して、時間をかけて丁寧に教えてもらえ、また参加したいと思った。(生徒)